新百合山手
公園管理運営協議会
会報

【第九号】
平成23年1月11日発行

平成二二年度 第三回「グリーンフレンズフェア」を十一月二十八日に開催いたしました

今回の活動は、少し肌寒い秋晴れの中、約百二十名がご参加いただきました。

①全公園・緑地の除草・清掃作業

今回も、専門家の指導を仰ぎながら草刈機による除草を行いました。機械の取り扱いに少し慣れて、前回よりも広い面積を刈ることが出来ました。公園をきれいに維持していくためにも、この作業を継続して行っていくことが必要です。

②カタクリの植栽、椎茸のほだ木づくり

里山の象徴的で貴重な草本であるカタクリの植栽を、さとやま公園に初めて植えました。適合した環境で数年経ないと開花しない難しい植物ではありますが、いつかカタクリの花を見れたら嬉しいですね。

また、椎茸のほだ木づくりは、今回で2回目チャレンジです。さとやま公園で伐採木を利用して菌を埋め込みました。

③濱野顧問による講習会

東京農業大学教授で当協議会顧問の濱野周泰氏に、今回の活動の様子をご覧になっていただいた後に、おやしろ公園で講習会を開催して頂きました。

講習会では、昨今問題となっている地球環境問題と、我々の生活や本協議会との接点について、ご教授いただきました。（※詳細は下記参照）

④芋煮会

昨年同様に、芋煮をみんなで食べました。活動後の芋煮は格別に美味しかったですね。準備をして下さった皆様、ありがとうございました

本年度の全体活動は、今回をもって無事終了しました。来年度も継続して作業を実施し、より良い公園づくりを目指しましょう。

（事務局）

濱野顧問による講習会 『明日につながる里山づくり』の概要

●地球環境問題は、身近のところに存在する

生物多様性条約第十回締結国会議（COP10）が最近名古屋で開催されましたが、非常に難しいと思われる地球環境問題ですが、実は我々の身近でも感じることが出来ます。

まず、生きていくことに欠かせない食事。安定的に食物を得るために、近年は動物や農作物を加工した製品が市場に出回るようになりました。更には、排出物は衛生面向上のために、水洗トイ、レがほとんどの家庭に普及しました。

この結果、我々の生活レベルが格段に向上した反面、元々ある自然のカタチが見えなってきているのが現在だと思います。この現象をもっと突き詰めると、人間が食物を得るためのサイクルと、資源の採掘状況（採り過ぎなのか？）がどんどん分りにくくなってきている、すなわち自然本体と我々の生活が直接結びつかなくなってきたことが、昨今言われている地球環境問題につながっていると考えます。

幸い新百合山手では、開発時に意図的に残された昔からの地形を留めた『里山』が存在します。この『里山』を本協議会の活動によって保全していくことはもちろんのこと、除草作業を年間通じて行うことで雑草から植物のサイクルを知ることが出来たり、椎茸のほだ木等の作物の収穫を子ども達に体感させる等、様々な活動によって元々ある自然のカタチを感じて欲しいと思います。

●自然環境教育とは？

現在、様々な勉強会や見学会等の環境教育が行われていますが、いろいろ拝見した中で、やはり自らが体感しないと実感が沸かないような気がします。特にリクレーション等で泥だらけになりながらも自然に直接触れることは、大人も、子どもも楽しみながら知識を習得することが出来ます。

本日の活動の中で、さとやま公園で一人のお子さんが地に這って落ち葉を自らの手で掃いていました。こういうことが自然を知る上でとても重要なことですので、親御さんは服が汚れたからといって、このような遊びを止めることが無いようにして頂ければと思います。

●文化的ステージにもなりうる『里山』

『里山』は自然環境を体感するステージだけではなく、使い方を工夫することによって、文化を感じるステージになりうるポテンシャルを秘めていると思います。

例えば、さとやま公園の木陰にハンモックを吊り、夏の暑い日に読書をするとか、ふるさと緑地の山頂にウッドデッキを復活させて、音楽会を開催する等の楽しめる場所として活用できます。

この時に、木陰の心地よさを感じたり、蚊に刺されたりするかもしれませんが、それは間接的に自然に触れていることであり、その先には、自然と共生することにつながっていくのだと思います。

●まとめ

最後に、二十一世紀の世の中の流れは『時間軸を長く見て生活設計を考える時期』にきています。人間は自然界から恩恵を受けて生活していることを改めて認識しつつ、次世代に引き渡す自然環境について、個々が感じて、更に考えていくことが、いま大切なことではないでしょうか。

↑専門家による草刈機の取り扱い指導

↑おやしろ公園の除草状況

↑開式

↑芋煮の準備状況

↑椎茸のほだ木づくり

↑カタクリの植栽